



こどもの可能性は無限大 プラス  
コペル

コペルウェイブック  
WAY BOOK

---

## CONTENTS

---

はじめに	01
ミッション・ビジョン・バリュー	02
Mission (ミッション)	03
Vision (ビジョン)	05
Value (バリュー)	07
■ 美しい心	09
■ 求める心	15
■ 誇れる心	21
コペル川柳	27
感動ストーリー	31
小学生対象調査 分析結果報告書	57

はじめに



## 「徳育」

### 時代が求める“人間力”のために

発達障害というレッテルを貼られた子どもたちは、ときに「問題児」として扱われ、周囲の理解を得られないことも多くあります。学校へ行くことにつらさを感じて不登校になったり、引きこもってしまったりする子もいます。さらには、社会へ出てから周囲とうまく折り合いをつけて働くことができず、生きづらさを感じている場合もあります。発達障害の子どもたちの生きづらさは、特に幼児期に適切な療育を受けることで解消できます。つまり、適切な療育や支援を受けられないことが発達障害を「障害」にしてしまっているだけだと言えるのです。

療育を必要とするすべての子どもが、適切な療育を受けられるようになること。

苦手なことよりも得意なことに目を向け、得意なことを最大限に伸ばせること。

定型的な発達をしている子どもも、非定型な発達をしている子どもも、それぞれがそれぞれの特性を尊重し合えること。それらが当たり前になって、「発達障害」が個性のひとつとしてとらえられ、「発達障害」という言葉が世の中から消える日がやってくることを願ってやみません。

株式会社コベル

代表取締役社長 大坪 信之



「ミッション・ビジョン・バリュー」



# Mission

わたしたちの使命

# 子どもの瞳が輝くとき、 美しい未来がはじまる

わたしたちは「瞳が輝く」教育を届けます。

私たちは、子どもの瞳が輝く教育を届けます。

私たちは、人と人が協力し合い社会を築き上げるのに必要な「個性」を大切に、  
子どもの瞳を輝かせます。

そんなコベルプラス卒の瞳輝く子どもが

大人になり、世の中を変えて、世界は平和になっています。

50年後、「コベルプラスがあってよかった」といってもらえるような  
平和な世の中にしたいです。

そんな美しい未来は子どもの瞳の輝きからはじまります。



# Vision

わたしたちの目指す未来

02

Vision

わたしたちの目指す未来

# 「幸福な家庭」を追求する 世界一の企業へ

「愛に満ちた」平和な世界をつくります。

私たちは、子どもの瞳を輝かせ、美しい未来をつくります。

子どもの瞳を輝かせる中で、子どもたちだけでなく、  
お母さん、お父さんの関係を大切に考えます。

私たちは家庭に寄り添うことで、  
子どもたち、お母さん、お父さんの絆も深まり、  
幸福な愛ある家庭が世界にあふれていきます。

私たちは、美しい未来のため、幸福な愛ある家庭を追求する、  
世界一の企業になります。





# Value

わたしたちの約束

03

Value

わたしたちの約束

# 「美しい心・求める心・誇れる心」

## 美しい心

私たちは、純粋な気持ちを持ち、子どもたちへ徳育を提供します。  
子どもたちへ関わるため、私たち自身も心を育てていきます。  
私たちは**美しい心**をすべてのベースとして大切にします。

## 求める心

私たちは完全性を追求します。  
そのために美しい心をベースにしながらも、世のため、人のために  
現状に満足せずに成長をし続けます。  
そんな**求める心**を常に持ちます。

## 誇れる心

私たちは共生発想を持つことで人に感動を与えます。  
感動は感謝につながり私たちの自信につながります。  
私たちが持つ**誇れる心**が、愛のある思いやりをもった行動につながります。



03-1  
Value  
わたしたちの約束



# 03-1

Value  
わたしたちの約束

## 美しい心

私たちは、純粋な気持ちを持ち、子どもたちへ徳育を提供します。

子どもたちへ関わるため、私たち自身も心を育てていきます。

私たちは美しい心をすべてのベースとして大切にします。

# 03-1

Value  
美しい心

## 基本姿勢

# 関わる人々、 全てに“無条件の愛”を届けよう

美しい心を持ち、

子どもたちやお父さん、お母さん、コペルに関わる人々に  
幸せになってもらいたいという無条件の愛を届けます。



片山 優奈 / 経理担当

東京本部ではオフィスに笑顔が絶えません。みな美しい心  
で人と接している証拠ですね！愛溢れる環境で働けること  
に感謝です。



# 03-1

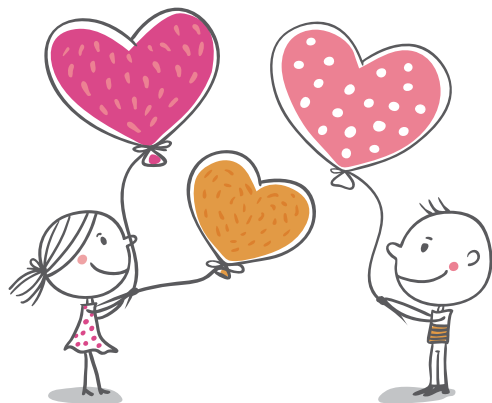
Value  
美しい心

## ありたい姿

### “上質”な人間を目指そう

美しい心により、“上質”な人間、  
つまり人間力を持つひとになります。

人間力とは、思いやりや親切、誰かのために動けることです。



齋藤 珠侑 / 採用担当

「上質な人間」の定義は人によって違うと思います。誰かを思い、助け合い、一緒に成長していく。私は、チーム全体を向上させることに貢献できる人間を目指したいです。



あるべき姿

”全体の幸福”を追求しよう

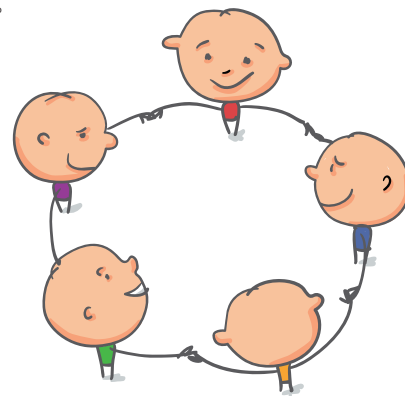
美しい心は、幸せを追求することにつながります。

誰か目の前の一人だけでなく、  
周りのひと、これから関わる人々の幸福を考えます。



深澤 結花 先生 / 研修担当

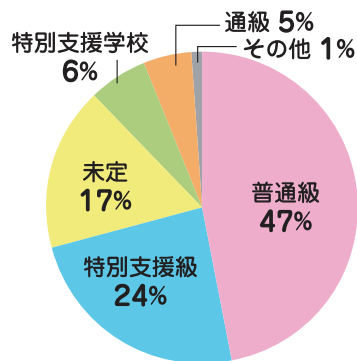
まずは自分自身を好きになることがとても大切です。好きなことや楽しいことから自分を知る。そこから周りに幸せの輪が広がっていきます。皆様と一緒に明るく幸せな未来を迎えたいと考えております。



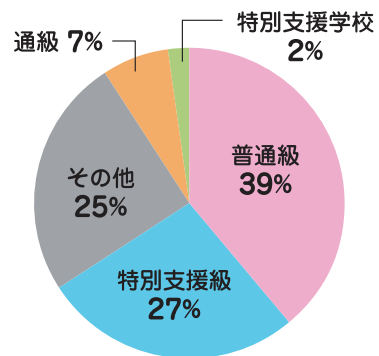
# コペル30周年アンケート結果



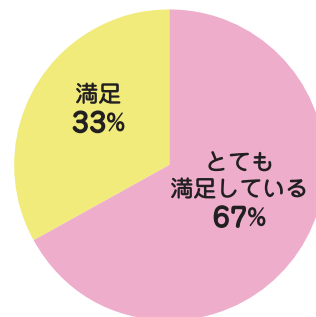
未就学の方にお尋ねします  
検討されている進学先について  
教えてください



小学生の方にお尋ねします  
お子さまの進学状況を  
教えてください



療育レッスンに  
満足していますか





03-2  
Value  
わたしたちの約束



03-2  
Value  
わたしたちの約束

# 求める心

私たちは完全性を追求します。

そのために美しい心をベースにしながらも、世のため、人のために

現状に満足せずに成長をし続けます。

そんな**求める心**を常に持ちます。

# 03-2

Value  
求める心

## 基本姿勢

# 120%の姿勢で、 自己ベストを更新し続けよう

求める心とは、成長し続けることです。  
100%で満足せず、120%を常に目指すことで、  
自己ベストを更新し、成長することができます。



須賀田 雪 / コベルプラスSV

わたしは、いつも好調か絶好調！  
失敗が一番の学びとなるので、失敗を一切恐れず、日々新しいことに  
挑戦しています。そうすれば、昨日の自分より少しでも今日の自分が  
“サイコー”でいられるから！



# 03-2

Value  
求める心

ありたい姿

## 真心こめて、 一所懸命に基本を磨き続けよう

求める心は、新しいことだけでなく、  
これまで大切にしてきたことを磨き続けることにもつながります。  
私たちは、基本に対して、真心こめて向かい合います。



佐藤 紗葉子 / 精算担当

直接利用者様と関わる機会が少ない部署ではありますが基本に忠実に一所懸命お仕事をすることで巡り巡って利用者様の笑顔に繋がっていると信じています。



# 03-2

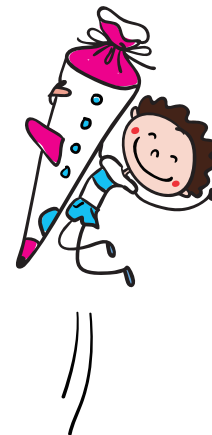
Value  
求める心

## あるべき姿

### 子どものように、素直であろう

求める心を持つために、素直であることが何よりも大切です。

子どもたちと関わりを持つ私たちだからこそ、  
子どものような素直さは持ち続けたいです。



小菅 哲也 / 上場準備担当

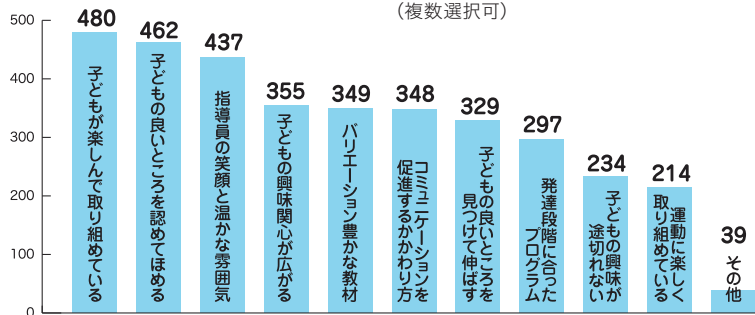
思い込みや決めつけをせず、真っ直ぐな目で物事を見ること、安易に限界を設けないこと。熱中する子どものような気持ちを大切に。

# コペル30周年アンケート結果

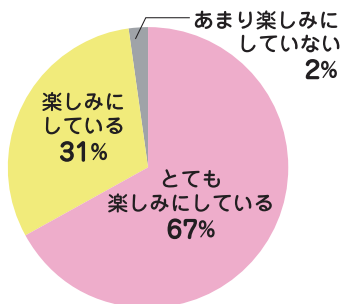


## 療育レッスンについて、 ここが良いと思うところを選択してください

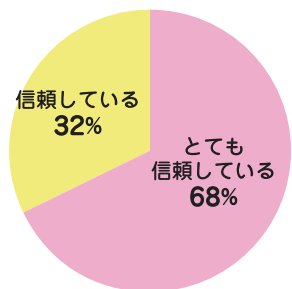
(複数選択可)



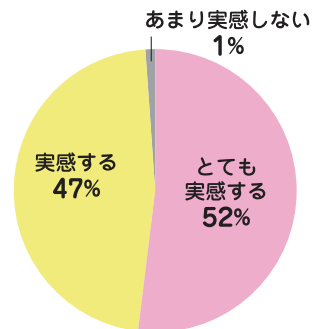
### お子様は コペルプラスのレッスンを 楽しみにしていますか



### 保護者様は コペルプラスの先生を 信頼していますか



### 教室に通室して お子様の成長を実感されていますか



03-3  
Value  
わたしたちの約束



# 誇れる心

私たちは共生発想を持つことで人に感動を与えます。

感動は感謝につながり私たちの自信につながります。

私たちが持つ**誇れる心**が、愛のある思いやりをもった行動につながります。



# 03-3

Value  
誇れる心

## 基本姿勢

# ”子育てなら世界一”という プロ意識を持とう

誇れる心を持ち、プロとして、振る舞う必要があります。  
一人よがりにならず、これまで大切にしてきた共生発想を持ち、  
他人のことを思ってきたからこそ、このプロ意識が生まれます。



山口 健太 / 営業担当

お客様にご説明するからにはコベルの仲間は全員子育てのプロ!  
子どもの可能性は無限大ですが、皆さんの可能性も無限大です!



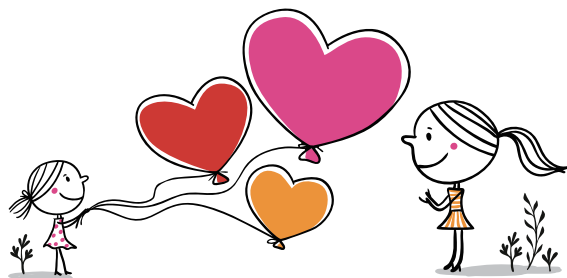
# 03-3

Value  
誇れる心

## ありたい姿

# 一期一会のこの瞬間に 全力を尽くそう

誇れる心を持つということは  
一日も早く、美しい未来をつくりたいという気持ちです。  
今、目の前にいる子どもたち、親御さんに、最高の教育を提供します。



高橋 結子 / コベルプラスSV

お子様にとって、周りの人たちにとって、そして自分にとっても、この瞬間は二度とないと思いながら、目の前のことに常に全力投球をしています。



# 03-3

Value  
誇れる心

## あるべき姿

### 長年の研究に基づいた 教育効果へのこだわり

誇れる心の根本には、私たちが長年磨き続けた、  
ノウハウや教材、それに基づいた教育効果があります。  
私たちは常にこれまでのコペルの歴史をこれからも大切にします。



田中 滯先生 / 研修リーダー

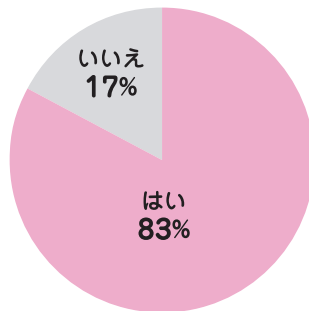
様々な種類の教材を使い、お子さまたちが飽きず楽しく取り  
組むことができ、1時間のレッスンで知らないうちにたくさん  
のことが学べます。



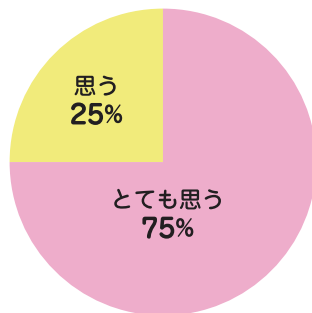
## コペル30周年アンケート結果



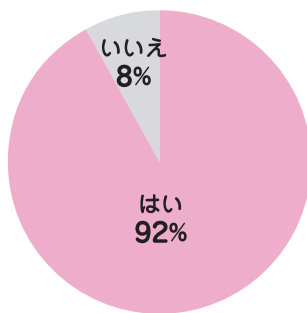
通所前、  
言葉の発達が気になっていましたか



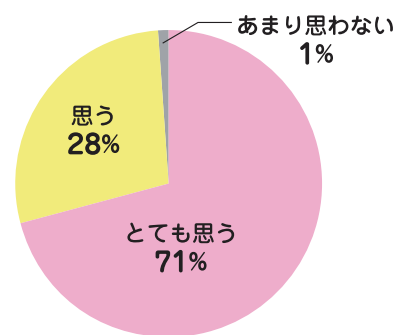
「はい」と答えた方にお聞きします  
通所してよかったと思いますか



通所前、コミュニケーションについて  
気になっていましたか



「はい」と答えた方にお聞きします  
通所してよかったと思いますか





# コペル 川柳

保護者様作品

短所は コペルにすれば 長所なり

生きにくい 我が子もここでは 笑顔だけ

「すごいでしょ きょう泣かなかったよ」帰り道  
成長ぶりに こちらが涙

ほめられた 子どもに笑顔もらう母  
日々の想いを おろせる教室

帰り道 喋らぬ我が子が 空見上げ  
奏でた鼻歌 「あおいそら」

初めての 二語文出たよ コペル行こー

「コペル行く！」今行ってきたところやで

ありがとう コペルに出逢い 思えたよ  
『このままがいい』『このままがいい』

発語なし コペルに通い 3年後  
「楽しかった」と 先生に言う



人前で 話せない僕 先生と  
ふたりの時は 話せるんだよ

気がつけば 息子より母 コベル沼

ほんとうだ！ 改めて知る 我が子の資質

できた日も できなかった日も 褒める日々

トイレ中 きこえるハナウタ 青い空

子の成長 フラッシュカードの 速さかな

ペルくんと 夢の中でも あおいそら

コベルはね 階段なんだ みんなのね





まあいっか えがおにかわる あいことば

コペルきて 親子ともども 救われる  
安心できる 素直になれる

先生に あった瞬間 喋りだす

次々に 教材提示 マジシャンか?!

月初め 教材変わり 目がキラリ

できたよと 弾ける笑顔 駆け寄って  
抱きしめる母 涙ぐみ

まあいっか 楽しく過ごす あいことば

コペルでね 自己肯定感 爆あげだ

おこりんぼ いつのまにやら ほがらかに  
思い当たるは コペルのあかり



この夏に初めて覚えたさようなら  
お辞儀するたび 家族微笑む

ペルくんの 封筒ぎゅっと 抱いて寝る

先生は 親には理解者 子には友  
口下手親子を つなぐ橋

まだ伸びる どこまで伸びる 可能性

レッスンで 魅せる眼差し 眩しくて  
君見る母は 今日もしあわせ

この場所で 子供も私も 救われた

ドヤ顔を 初めて見れて 母涙

せんせいが ほくにくれたまほうのことは  
しっばいしても『まあいっか☆』





## 母親コペルニクス

ペンネーム:saori / 横浜市内の教室











## KKくんのコペル

ペンネーム: KKんママ / 中央林間教室

KKくん(2歳半)がDQ70の自閉症と診断されて少しして、我家は引越が決まり、コペル中央林間教室に通うことになりました。

引越前は診断を受けたセンターで、日常生活動作や集団行動の療育を受けていました。

父母は学習中心のコペルで良いのか悩んでいましたが、家から一番近いから継続して通えるのではないかと即決しました。

始めは訳も分からずコペルに通っていたKKくん、次第にイヤイヤが始まり、家から出られない、行く途中の道路で寝転んで動かない、腕が抜けそうになるくらいの抵抗、号泣奇声で対処不能な母。

コペルに通うメリットが分からなくなっていました。

こんな子に学習なんてさせて何になるの? 必要なのはちゃんとした生活ができる療育なんじゃないの?

毎回コペルに通う度に、教室に入れないうKKくん、泣いたのが隠せない母。

そんな私達にいつもコペルの先生方は本当に優しく温かく迎えて下さいました。時間なんて早くても遅くても大丈夫ですよ、気にしないでいらっしゃって下さい、と先生は声をかけて下さり、教室に入れないうKKくんも魔法がかかったように帰るころには笑顔。

でもやっぱり、コペルで良いのか、納得がいけない日々…。  
思い切って先生に尋ねました、KKくんはここで良いのでしょうかと。

先生は、確信をもってのように、「お母さん、KKくんはとってもコペルが合っていると思います。KKくんはとっても勉強が好きで頭のいい子です。」と仰いました。

そうなんですか???? 全然そんな感じには全く、全然思えませんでした。

それでも先生の言葉を信じて毎回通う度に、月の初めに出来ない課題が、月の終わりには出来ている! 母はとても嬉しくなり、KKくんも自信がついてきて、どんどんやる気が出てきているのが目に見えるように分かりました。

何をやってもできない子が、これはできる! と自信を持ってできるので! 本当に魔法でしょうか。

今ではコペルに出かけるのを楽しみにしているKKくん(5歳)、いつも苦虫を噛み潰したような顔だった母は笑顔です。

KKくんの成長もありますが、先生方がいつも総出で取り組みを考えて下さり、絶えず温かい目で見守って下さり、諦めずに優しく接して下さったおかげだと思います。

KKくんは、少し保育園の皆より、コペルで教わっていて分かっている事があると、嬉しくてもっともっと勉強しちゃう子になりました。

親馬鹿で、頭がいいのかな? なんてうっかり思ってしまう、そんなこと我家はないと思っていましたが、時々…。

KKくんはコペルが合っている! と仰って下さった先生、いつもお世話になっている頼りになる先生方に日々感謝し、母は、KKくんのための、KKくんのコペル! だなあと、うっかり? ではなく確信して思ってしまうのでした。小学校に行っても通いたいですね。



## コペルプラスで咲かせた成長の種

ペンネーム：コタツ／蘇我教室

「まわりの子と比べると、成長がゆっくりですね。」

息子が2歳になり、通っている保育園の担任の先生から、発達に対する指摘を受けた。

発語が少ない、言葉の理解が怪しい、物事の覚えが悪い、集団の流れについていけないことがある…等々。発達に対する不安要素を聞き、母親の私はショックで呆然とした。

そして、息子のできないところばかりに目を向けるようになっていった。できないことをできるようにしようと躍起になり、絵本やパズルを使って一方的に働きかけるものの、彼は日に日に嫌そうな顔になっていく。

当たり前の結果だろう。母親が難しい顔をしながら、無理やり知識を押しつけようとしてくるのだから。

もちろん、成長速度など上がるはずもなかった。

そんな時、通い始めたのが、児童発達支援のコペルプラスだった。

通所当初、緊張した面持ちで建物に入っていく息子。

指導員の先生方が、笑顔で明るく迎え入れてくれ、少し表情が和らいだような気がした。その日担当する指導員の先生と、親子分離をして別室に入っていく息子。その様子をマジックミラー越しに見る私。

さて、課題についていくことはできるだろうか…と不安な気持ちで見守る、息子はいい意味で裏切ってくれた。

指導員の先生が次々と提示する課題。

私も自宅で、オモチャを使って息子に働きかけていたものの、対応の仕方が違った。

できないことを見るのではない。息子自身をしっかりと見て、課題に最大限の興味を向けられるよう働きかけてくれるのだ。

何に興味を持ち、何が得意で何が好きなのか、しっかり向き合って見極め、本人にあった進め方をしてくれる。

私が無理やり知識をつめこもうとしていた時と、表情が全く違う。

課題に興味を持ち、自分から学ぼうとしている姿勢が見て取れる。

こんな真剣な顔、できないことを何とかやらせようとしていた時には、決して見せてくれなかった。

レッスン時間の45分間で、取り組んだ課題の数は約25個。

大人の私でも頭がついていかないほどのたくさんの課題を、息子はレッスンの時間中、ずっと集中して取り組んでいた。

2歳でもこんなに集中力を発揮できるのかと驚かされたものだ。

そして、何より指導員の先生が褒める褒める褒める！

何なら担当をしていない別の先生まで、すれ違いざまにでも褒める褒める褒める！

課題ができた時だけではない。

椅子にきちんと座れた時、挨拶ができた時、ありがとうが言えた時等々、普段の生活では流されてしまいそうな些細なことも、見落とさずに褒めてくれるのだ。

指導員の先生に褒められ、ニヤッと得意気な表情をする息子。



## 感動ストーリー

得意げな表情から、自己肯定感が上がり、自信をつけていく様子が伝わってくる。

できないことばかりに注目していたら、見せてくれなかった生き生きとした表情だ。

そんな息子の様子が嬉しくて、つい私までニヤッと笑ってしまいそうになる。

それから、コペルプラスへの通所回数を重ねて半年。

息子はどんどん指導員の先生方に心を開き、ニコニコと笑顔で会話をしながら、課題を楽しく取り組んでいった。

そして、驚くほどの速度で成長していった。

質問に答えられるようになり、

自分の名前が言えるようになり、

複数の指示をこなせるようになり、

抽象概念を理解することができるようになり、

指導員の先生とごっこ遊びができるようになり…

挙げればきりが無いほど、様々な面で成長してくれた。

かつて、発達の遅れを伝えてくれた保育所の担任の先生まで驚くほどに。

キラキラの笑顔で、できることを喜び、自信を持って取り組んでいく。

ああ、そうか。子どもの成長とは、強制的にさせようとしてもできるものではなく、本人のやる気があってこそできるものなのだ。

コペルプラスでは、課題への興味を持たせること、褒めて前向きにさせることで、学びたいという気持ちを引き出していた。

学ぶことへの意欲が、息子の成長力に繋がっていたのだ。

当たり前だ。大人だって興味がないことは苦痛だし、認めてもらえなければやる気も出ないのだから。

コペルプラスは、子どもだけではなく、親の私にも大切なことをたくさん教えてくれた。

『子どもの成長とは、花の種を咲かせるようなものである』

そんな言葉を聞いたことがある。

それぞれの子どもが持つ成長という名の花の種。

同じように見える種でも、育つ速度は様々であり、咲かせられる花の種類も違えば咲く時期も違う。

だけど、子どもだけでは自分の種を上手に咲かせられなくて、成長に必要な太陽や水、肥料を与えてあげることで、よりその子らしい花を咲かせられるのではないだろうか。

好奇心・学習意欲・自信

息子はコペルプラスのレッスンで、成長に不可欠なものをたくさん与えてもらった。

そして、自分らしい花を咲かせることができた。

子どもの花を咲かせるために、優しく支えてくれる太陽や水、肥料のような存在…それがきっと、コペルプラスなのだろう。

息子は今日も、楽しそうな顔でレッスンを受けている。

無限の可能性を秘めながら。



## 天使

ペンネーム：ひいさん／五井教室

ダウン症の5歳の息子。

一言も喋れず、意思の疎通もかなり難しい。

親の私でも、何を考えているのか分からない事が多々ある。

何も考えていないのか？とさえ思う。

1人の世界が好き。

話しかけても基本は知らんぷり。

何かやって欲しい時だけ手を掴みに来る。

それ以外は私なんて居なくても平気。

5年経っても、ママと呼んでくれた事は無い。

『ダウン症の子は天使』

よく聞くセリフだけど、

『ニコニコしていて愛想がいい』

と言うのがダウン症の持ち味で、

きっとそこが天使と言われる由縁だと思うけど、

うちの子は多分自閉症も合併しているから、

ろくに笑わないし、愛想も悪い。

そんな息子がコベルに入所したのは今年の2月。

出来たての五井教室。

藁をも掴む思いだった。

でも、きっと何も変わらないだろう。

うちの息子は障がいのレベルが違う。

そんな気持ちで通い始めた。

先生方はみんな明るく出迎えてくださった。

指導内容は、正直うちの息子にはレベルが高いなと思う所もあるが、

週に2度通って何度も繰り返すうちに、

初めは見向きもしなかった事へも少しずつ興味を持ち始めた。

家ではここまで真剣に取り組む事は至難の業。

それだけでも先生方には頭が上がらない。

息子も、初めは泣きべそをかいて教室に入ろうとしなかった時もあったが、

今では先生の手を引っ張り、自分から入ろうとする事さえある。

そしてフラッシュカードがととても好きだと言う事の発見、それから音の出る物にも興味津々で、楽しそうな笑顔や手を叩く場面も増えた。

何より先生方に、

『りおくんは存在が天使。居るだけで癒される』

と口々に仰っていただき、

息子がちょっとでも前回と違う反応を見せただけでも飛び上がって喜んでくださる。

息子もそれがとても嬉しそうで、

通所する前と比べて表情がだいぶ豊かになった。

前施設長からは、

『こんな風にりおくんが穏やかで、優しい子なのは、お母さんが大切に大切に愛して育ててきた証拠です』

と身に余るお言葉をいただいた。





## 感動ストーリー

私は息子が誕生し、絶望の淵から少しずつ今日まで這い上がってきて、今でも他の子と比べてしまって落ち込む事もあるし、周りの目が気になり恥ずかしい気持ちになる事もまだまだあるけど、そんな風に言っていたら、  
ああ、今日までの辛い事も沢山の涙も、間違いじゃなかったのかなって初めて思えた。  
息子の事を心の底から「天使」だと思えるにはまだ時間が必要だけど、そんな風に言ってくたさる、偏見のない優しく暖かいコペルで、息子だけでなく親である私も確実に成長させていただいている。



## 希望の光

ペンネーム：ぼちっち／古江教室

また威嚇…  
またここも通えないの?!  
それがコペルさんでの最初の記憶。  
その頃の娘は、道行くすれ違う人、友達、保育園の先生、親にさえ『威嚇』をする3歳でした。  
すごい形相で  
『ぐあうがあ!!』  
『やめろ!!』  
『さわるな!!』  
と誰ふりかまわず言葉を投げる、そんな女の子でした。  
コペルさんでも同様の様子で、  
ここも駄目か…と打ちひしがれていました。  
療育する場に無理やり連れて行きたくなかった私の気持ちは、いつ頃やめようかなーとはじめから諦めムード。やめるタイミングをうかがっていました。

そんな諦めの気持ちを抱えながら何度か通っていたある日。  
相変わらず威嚇する娘をみていたら、怒りながらたまーにプログラムに参加している娘に気づいたんです。なんて思っていたら、最後まで教室の中で過ごしていました。  
『あれ?参加してた、よね…?』  
そうです。  
いつのまにか暴れん坊の娘は、気付かないうちにコペルの先生方の策略にハマっていたのです(笑)



やめるタイミングを探っていた私は、もう少し様子をみよう。もう少し、もう少し。

と思っているうちに気付いたら2年を過ぎ、コペルで過ごせる時間も残り半年となってしまいました。今では威嚇の、「い」の字も感じられない素敵なお嬢さんに変身。療育を最初から最後までニコニコで受けられるようになりました(;v;)コペルさんに通って、接する大人の態度や思いで子供はこんなにも成長するのだと実感する事が出来ました。

それまでの娘は、いつも大人に攻撃され(怒られ)、自分を守る為に『威嚇』という形を取っていたのかもしれない。

あの時やめなくて良かった。

先生方に会えて本当に良かった。

この子も私もきっと大丈夫。

私達が頂いた希望の光を、コペルさんにはこれからも沢山の方々に届けて欲しいと願っております。

先生方、親子共々助けて頂き本当にありがとうございました。

卒業したくないよー!!

おしまい



## コペルという楽園を見つけた ゆうちゃんの一年

ペンネーム：チョコミント／浜松幸教室

次男のゆうちゃんは通室当時4歳になったばかりでしたが言葉が遅く、理解力がなく、語彙力が3歳児平均以下でした。

話せるのは単語だけで、7歳離れた長男を名前の最後の一字の「と」と呼んでいました。

保育園では顔合わせのたびに、障害者用の療育学校に通った方がいいと言われ、親の私の方はメンタルがボロボロ、毎日泣いて過ごす日々でした。そこで2020年9月にサポーター付きの幼稚園を紹介され転園しました。理解ある保育士や担任のお陰で息子は、初めて幼稚園という場所に自分の居場所と楽しみを見つけました。

市役所等に相談をしてコペルを紹介され、その仲介役のケアマネの方がとても親切な方で心身ともに勇気を頂きました。初めてコペルの見学に行った時に、先生のレッスンの仕方に強い感動を受けました。この教室に参加すれば間違いなく息子が成長すると同時に、私自身も何か違う視点で物事を考えることができるのではないかと!と思いついた。この迷いもなく通室を決意。

コペルの指導法は決してその子を否定しないこと。今のその子の状態を全て受け入れ認めてあげると言う事。これまでの私は、そんな当たり前の事さえも忘れ考えることさえもできませんでした。

いくら親であっても子供に対する思いや考え方が、必ずしも正しいと



## 感動ストーリー

は限らないと言う事を学び、先を急がずとにかく今の息子を認め、必ず褒めるということに日々努力しました。

子供が集中できる様に素早くひっくり返すフラッシュカードは魔法のカードでした。

小さな事でも、例えそれが求めていた回答や動作でなかったとしても、なんでも出来たことをまずは褒めて認める。決して否定しない、怒らない指導法。

ゆうちゃんは褒められて伸びるタイプでした。褒められた事に喜びを感じて、彼の中で自信がついたことにより、今まで大人を頼って「できない、できない」と口にしていた事に、自ら取り組もうとしたり、「自分でやれる！」と口にしなが、物事に取り組む姿勢を身につける事ができました。

停滞期はもちろんあり、自我が強くなり周りの空気を読む事が難しい時期もありましたが、現在はその部分も段々改善されてきています。

保育園では理解されず孤立していた彼が、幼稚園で新しい自分を見つけ、そして辿り着いた楽園がコペル。「コペルに行きたい」、「コペルの先生好き」と口にして何より息子にとって救いの場となり、心置きなく通える場所であると言う事は言うまでもありません。

大きな声を出したり、グズっているときも優しく息子に寄り添う姿は、親同等の目線で居て下さっている部分と同時に息子の心情にも寄り添って下さっている証拠。

最近では幼稚園でも段々仲良しの友達ができる様になったり、グルー

プレッスンでコペルと一緒にになった友達とさよならする時に、淋しくて泣いたり出来るまでに、人間関係の大切さや楽しさも、彼なりに習得できるようになりました。

通い始めて1年になり息子も5歳になりますが、今もなおコペルに携わるすべての先生方から学びそして考えさせることが日々あります。今感じる事は、1年前の息子では想像もできなかったような成長を遂げ、こちらから発したことのない言葉がそのまま会話の中に取り入れられていることに日々驚かされています。

お友達との関わり方や優しい心を持つことの大切さをコペルの先生方を通じて学んでくれた気がします。

これまで理解力が低かった部分が1番大きかった悩みでしたが、ふと気づいたときにはそれがしっかりと単語になり、のちに文章となり、発する言葉の能力も日々向上しているのです。

今までお友達との関わりより大人を頼っていた息子が、今はお友達と共に楽しく関わることを覚え、徐々に友達関係を築いて行っていることに心から喜びを感じています。

先日、長男の名前の最後が「と」で終わるからかずっと「と」と呼ばれていた長男の運動会がありました。ゆうちゃんと「と」の応援を撮影している時です、「ねえ、お兄ちゃんどこにいるの？ぜんぜんみえないじゃん？」と息子が話かけてきました。こうした会話は日常的になり、休日には私と口喧嘩する位にまで語彙力も表現力も成長しています(笑)。

1年前の無口な息子とは別人のようですが、優しくゆうちゃんと遊んで



くれる長男にも救われています。

コペルの先生方は「ちょっと待ってね」という言葉さえも使いません。「まずこれをしてから、次にこれをしようね」と、必ず添えて生徒たちと会話している姿に、私は日々感動し先生方から学んでいます。そして生徒たち以外にも、その保護者に対しても絶対に否定はしない。「お母さんはいつも頑張っていますよ」と優しくお声掛けいただけることで、発達障害児を抱える親としては深い勇気を与えられた気持ちになります。

間違いなく言える事は、コペルに出会わなければ、コペルの先生方がいなければ今の私と息子はないという事です。

どんな姿であろうが決して否定をしないと言う指導法に、私は深く感銘を受けています。

毎日通う幼稚園では見つけられない視点・論点で息子と向き合って下さるので、知識も増えている気がします。

今後のゆうちゃんもコペルと共に歩み、成長していく姿を私は見届けたいと思います。



## 変な子、ではありません

ペンネーム：mercy／金沢文庫教室

うちの子は現在、年長さんの元気いっばいの男の子です。食べる事が大好きな食いしん坊で、電車が大好きな鉄道博士でもあります。コペルプラスには年少さんからお世話になっています。親子でドキドキ緊張しながら見学に行きましたが、早いものでもう2年が経ちました。

我が子の発達の遅れには2歳ごろから気がついており、役所の心理士さんに相談したり、地域の療育センターでもサポートを受けていました。

年少さんで幼稚園に入園してしばらくすると参観日があり、集団の中で過ごしている息子を見るのは初めてのことだったので、とても楽しみに観に行ったのですが…

親御さんたちが教室にゾロゾロと入って来たもので、いつもと違う状況に驚いた息子はパニックを起こしてギャン泣きでした。先生がなだめてもかんしゃくを起こして机の上のクレヨンを床に投げ散らかしたり、とにかく悪目立ちしてしまいました。

大人しく座って先生の指示を聞いているまわりのお友達との差は歴然で「うちの子は、他の子供たちよりこんなに劣っている」と大勢の前で見せつけられてしまったような気持ちでした。

いたたまれなくて、一生懸命やってくれている先生にも申し訳なくて、



## 感動ストーリー

涙を堪えるのに必死でした。

他のお母さん達にも「変な子」「おかしな子」と見られているに違いない。うるさくして、授業を邪魔されたと感じて怒っているお母さんもいるんじゃないか?と、とにかく「うちの子がご迷惑をおかけして申し訳ない」という気持ちで私は頭がいっぱいになってしまいました。

参観が終わると玄関ですれ違うお母さん方に片っ端から「うちの子が騒がしくしてすみませんでした」と謝ってまわりました。特に、息子の両隣の席のお子さんのお母さんには何度も謝りました。

担任の先生にも、園長先生にも、お手数をお掛けして申し訳ありません。と謝って謝って参観日を終わりました。

どうしてこんなに私は謝っているんだろう。

今日一日で一体何回「すみません」って言っただろう。と辛くて悲しくてとても落ち込みました。

その後も他のお友達との差は目立つようになり、お友達は上手にお絵かきをしていてもうちの子は意味不明な「殴り書き」  
工作も、うちの子の作品だけぐちゃぐちゃで何が何だかわからない代物でした。

私は他のお母さん達に「いやーうちの子はもう全然ダメで〜」「○○ちゃんは本当に何でも上手だね〜」と笑って自虐していました。

本当は、他の子よりできない事が多くて目立ってしまっている事が辛くて、授業参観、作品展、お遊戯会など、行くのがだんだん憂鬱になっていました。

自分の子は、可愛いです。良いところもたくさん分かっています。

それでも、集団の中にいるとうちの子だけが非常に劣っているように見えてしまい、お友達や親御さん達の視線も気になって仕方ありませんでした。

少しでも息子が伸びてくれたら、と児童発達支援施設を探し始め、コペルプラスに通い出したのは年少さんの秋でした。

歌の課題で、息子はちっとも歌おうとせずにとぼを向いていました。

私は一生懸命やってくれている指導員の先生に申し訳なくて、少しは参加してよ!とハラハラしながら見ていたのですが、先生は「ちゃんと座って聞いていてくれたね!ありがとう!」と褒めてくれたのでとても驚きました。

これはやりたくない!もっとパズルをやりたい!などとワガママを言っても「じょうずに伝えてくれてありがとう!」と褒めてくれました。少しでも良いところを見つけて褒めてくれるんだな、と、いつも「できない事ばかり」のうちの子がこんなに褒めてもらえた!息子もなんだか嬉しそうだ!と目から鱗でした。

おそらく、息子自身もこんなに褒めてもらえて成功体験を重ねられたのは初めての事だったのだと思います。恥ずかしながら、親である私も褒めるより注意する方が多かったと思うのです。

あっという間にコペルと先生達のことが大好きになり、コペル次はいつ?早く行きたい!と楽しみに通うようになりました。



そして私自身も、療育中に「最近の息子くんは怎麼樣ですか？今日はきちゃんとお椅子に座ってお話が聞けていますね」など教室長の先生が声をかけてくれたり、ちょっとした相談に乗ってくれるのをとても嬉しく、息子と一緒に通うのを楽しみに思っていました。

その頃、保護者が用紙に相談や質問を書いて渡すと、後日お返事がもらえるというシステムを先生が試験的に始めました。

私はさっそく「比べてはいけないとわかっていても、やはり幼稚園のお友達と比べては遅れを痛感して落ち込んでしまいます。また、お友達の母さん方に『変な子』と思われるのではとても気にしています…」と、相談を書いて先生に預けました。

数日後に頂いた先生からのお返事は、私の宝物になりました。今でも大切にしております。

『…息子くんはひとつひとつ確実に課題をクリアできるようになり、とても成長を感じています。ついお友達と比較してしまうお気持ちはわかりますが、比べるのはお友達ではなく、過去の息子くん自身にしてあげて下さい……………そして、息子くんは『変な子』ではありません。

『素晴らしい子』です……』  
と書いてありました。

私にとっては可愛い子供でも、人に迷惑ばかりかけてしまう子。できない事がたくさんある子だという引け目を感じていたのに、今のままの姿でも「素晴らしい子」ですよと認めてもらったのは初めてでした。

とても嬉しくて嬉しくて、世界が開けて心が軽くなったような心地でした。

あれから2年近くが経ち、得意なこと、自慢できること、大好きなこと、たくさん見つけてあげることが出来ました。

うちの子の場合、特に文字が得意だという事がわかり、先生達も息子のやる気や自信をさらに伸ばせるよう、たくさん褒めてひらがなの課題を毎回やらせて下さいました。

初めて自分だけの力で書いた言葉は「ママ」ではなく……  
『たらこ』でした(笑)

大好きなおにぎりの具です。それでも嬉しくて嬉しくて、ファイルに入れてコベルに持っていく、先生達に見てもらいました。先生達もとても喜んで、たくさん褒めてくれました。

気がつけば卒園まであと少しです。

コベルの先生達に支えられて、息子の良いところや素晴らしいところに沢山気づかせてもらい、親も子も笑顔で楽しい幼稚園生活を送れました。

心から感謝しています。

小学生になっても、きっと大丈夫！あなたは素晴らしいところが沢山ある子だよ、と温かい気持ちで寄り添ってほしいと思います。



## 娘が教えてくれたこと

ペンネーム：ダンナ／青物横丁教室

青天の霹靂とはまさにこのことでしょうか。

仕事中の私の電話に妻から着信がありました。そんなことは滅多にないため呼び出しがあった瞬間、嫌な予感がしました。その思いは残念ながら的中し、妻曰く「3歳の娘がけいれんを起こし、救急搬送された」とのこと。私は幼児によくある熱性けいれんのようなものだろうと思っていたものの、妻は気が動転していたためすぐに病院に向かいました。しかし、私のそんな楽観的な思いは瞬く間に消え去り、救急救命室で対面した娘は人工呼吸器につながれ、意識がありませんでした。その瞬間、一般的な熱性けいれんではないことを私もすぐに理解しました。しかし、当初は具体的な病名は分からず、コロナ禍であったため集中治療室で闘い続ける娘とはほぼ面会できません。私たち夫婦は途方に暮れ、泣き暮らす日々を過ごしました。その後、1週間ほど経って判明した病名は「二相性脳症」、ウイルスによって脳が炎症を起こす難病の一種だったのです。同時に医師からは告げられたのは「脳に重い障害が残る可能性が高い」という事実。奈落の底に突き落とされたような絶望感で頭がいっぱいになりました。私たち家族の人生はまさにそこから180度変わったと思えます。

幸い娘は一命をとりとめ10日ほどで集中治療室から一般の小児病棟に移ることになりました。しかし、元気よく走り回り、楽しくおしゃべりしていたのが嘘のように、その時は自分で寝返りをうつこ

ともできず一言も言葉を発することができない状態でした。

娘は倒れる1週間ほど前に幼稚園に入園したばかり。人懐っこく毎日楽しみに幼稚園に通っていた娘がなぜこんなことになってしまったのか… どこにもぶつけようのない怒りと悲しみがこみあげて来ますが、自分ではどうすることもできません。インターネットで病気や今後のことについて調べているうちに、障害と向き合うには「失ったものを悔やむのではなく、出来るようになったことを喜ぶ」という記述を見つけました。言っていることは十分わかりますが、当事者となって自分がすぐに飲み込むことは到底できません。街を歩き、元気そうな子どもを見るだけで辛い気持ちになっていました。

しかし、ただ1つ分かるのは「娘は生き続ける事を選んだのだ」ということ。そのため私も妻も歩みを止めることは許されないという思いで、娘の入院生活を見守り続けました。1ヶ月ほど経ち、何とかおすわりが出来るようになり、喃語を発し始めるまで回復し、ようやく退院しました。ただ、医師が言うにはここからどこまで娘が回復、成長するかは未知数だとのことでした。

すでに娘の入院中に幼稚園は退園していたため、医師や区の福祉課のアドバイスを受け、初めて障害のある子を対象にした療育施設というものがあることを知りました。そこで区の福祉課からもらったパンフレットに載っている療育施設に順番に電話したもののどこも空きがありません。しかし、偶然にもパンフレットの一番最後にあったコベルプラスにわずかな空きがあったのです。

すぐに私たち家族は体験入学に向かいました。病気になる前にも幼児教室には通っていましたがそれとは違うもので、知的な遅れのある子を対象にしていることが良く分かる緻密なカリキュラム、かつ先生も豊富な訓練を積まれている様子が見て取れるものでした。そ



れを見て私に沸き上がったのは、これを続ければ少しは良くなるのではないかという思い。何より先生方は何もできない娘と誰にも相談できず不安そうな私たちに寄り添い、療育のシステムなどについても丁寧に教えていただけたことがとても嬉しかったです。私はようやくわづかな希望を持つことができた気がします。

その後、受給者証をもらうのに1ヶ月ほどかかり、やきもきした日々を過ごした後に念願の通所開始となりました。その頃、ようやく娘はよちよち歩きができるほどに身体機能は回復していましたが、意思疎通は全く図れる状態ではなく重い知的障害を抱えていることは明白でした。とはいえ最初のレッスンの日は通所をはじめたからといって劇的に良くなるわけではないと分かっているものの、期待を膨らませずにはいられなかったことを記憶しています。そして、いざ始めてみるとレッスン中の娘は触るものは何でも口に入れてしまい、じっと座っている事すらできません。あらためて娘の現状を目の当たりにして涙が溢れました。私はしばらく直視することもできませんでした。「もう一生このままかもしれない…」障害と向き合うことの難しさを改めて痛感させられた気がします。初回の療育後、先生からは「少しずつ慣れると思います。」と、しごく冷静かつ優しく伝えられました。先のことは当然誰にも分かりません。しかし、今思えばきっと娘にも成長があることを何人ものお子さんを見てきた先生は感じておられたのかもしれない。その後、私たちは藁をもつかむような思いで療育に通い続けました。最初の1ヶ月ほどは目に見える成長もなく、半ばあきらめ半分の気持ちになっていました。しかし2ヶ月ほど経つと物を口に入れることが減り、3ヶ月経つと喃語が意味のある単語に変わったりと少しずつ、ゆっくりではあるけ

れども娘に変化が見え始めたのです。そこでようやく私たちは「失ったものを悔やむのではなく、出来るようになったことを喜び」ということが少し飲みこめるようになった気がします。

現在通い始めてから、わずか3ヶ月あまりですが娘とは少しずつ意思疎通が図れるようになってきました。そのおかげで買い物に行ったり、食事に行ったり元の生活を取り戻しつつあります。病気になる当初は元気に幼稚園に通う子たちを見かけると目をそむけなくなるほど悲しい気持ちになりました。しかし、今は娘を他人と相対的に見て悲観することには意味がなく、娘自身の成長そのものに喜びを見出すことが大事なのだと考えられるようになってきました。

自宅では“できないこと”に感情的になり娘に適切な教育を施すことが出来ていない気がすることもあります。しかし、こうしてプロの療育施設のフォローのおかげで成長を取り戻すスピードを上げることができたのだと思います。私は仕事の都合で通所に同行できないことも多いのですが先生が書いてくれる「サービス提供記録」に目を通すのが楽しみなのです。その手書きのメモにはいつも「できたこと」だけを書いてくれています。そのことで親は勇気づけられ、先生方に信頼を寄せられるのです。子どもたちを優しく見守り、適切な指導を続けるのは簡単にできることではありません。この場を借りて先生方に心より感謝申し上げます。娘の病気をきっかけに失ったものがあることは事実です。一方で私たち夫婦は新たなことを学ぶことが出来ました。福祉の課題やマイノリティの気持ち、そして子どもの成長がどれほど尊いことなのかを。40歳を超え、新し





## 感動ストーリー

く何かを吸収することは少なくなりましたが、娘のおかげでまだまだ私も成長できるのだと思えました。これが娘から教えてもらったことです。もちろん今だって悲しみや悔しさから解放されたわけではありません。しかし娘の人生はまだ始まったばかり、その歩みがゆっくりではあるけれども止まることはありません。だから我々は前を向いて娘を応援し続けたいと思います。



## 初恋は先生

ペンネーム：Yママ／周南久米教室

少し私の子の自己紹介です。私の子供は保育園に通う現在6歳の元気な男の子で自閉症です。自分の思う通りにならなかったら癪癪をおこして物をなげたり、ひっくり返って泣いてしまう事も。ですが普段はとても素直な愛らしい子です。そんな息子の初恋です。

約1年前の6月、すでに月2回の療育を受けていましたがもっとこの子に刺激を与えて、色々な事を学んで経験して欲しいと思っていました。私が住んでいる所は田舎で療育を行える機関も凄く限られています。色々模索をしていくなか広告の欄に新しくオープンしたコペルの教室を見つけ、すぐに電話しました。体験を行った日から1ヶ月後週2回レッスンを受ける事になりました。

まだオープンしたばかりで先生も少なく、毎回S先生がレッスンして下さっていました。

S先生はうちの子のペースに合わせてレッスンしてくれてました。

包み込む様な優しさで寄り添ってくれる先生です。

息子も最初は楽しそうにレッスンを受けていました。

しかし教室に通い始め3ヶ月、半年になり息子も、教室にも先生にも慣れてきたのか「今日はやらなーい、やりたくなーい」が増えてきました。

月日経ち色々な先生が増え、毎回違う先生で色々な刺激をもらい、息子はやりたくない時もあるけど、先生達のプロの持っていき方で、



毎回レッスンを楽しんでいました。

教室に通うお友達も増え、週2回の個人レッスンのうち1回は集団に変わり、S先生も忙しくなり、息子もなかなかゆっくり会えない日々もありました。

通い始め1年が経つ頃の事です。徐々にS先生に会うと息子はとてもはにかんでニコニコしてました。私が見る初めての表情でしたがあまり気には止めてなかったのですが、また次の週、S先生に会うと口を抑え婚しさを隠しきれない、ニコニコの息子の姿が(笑)

今までこんな顔見た事なく、母の直感でした。

これは間違いなく息子の初恋だあー！！

息子は「僕、S先生大好き」と教えてくれました。

息子にこんな感情があるなんてー！！！！

私はとても嬉しかったのです。

保育園に通っていて、他の女の子とも一緒に遊んだりしているのに、先生からもそんな話は聞いた事がなく恋には無縁かもと思っていました。

現在でもレッスンが終わると、母をスルーし先生にかけよったり、集団レッスンで他の子を待っている間先生にハグしてみたり、集団で先生が補助に入って、うちの息子の隣にいと息子は、先生とカップル繋ぎをしてみたり、先生の髪の毛を触ったり(笑)

私はそんな事をする息子を見るたびに新たな一面の発見で嬉しいです。ですが現在そんな恋にも少し変化が…

今でももちろんS先生が大好きですがもう1人コペルの先生が気になって仕方ない気配の多い息子でした(笑)



## 成長と感謝

ペンネーム:oggy/横浜蒔田教室

朔太郎が2歳8ヵ月の頃、周りと比べて言葉の遅れがありました。明らかな遅れではないものの、語彙は少なく発音も不明瞭。その他にもオウム返しや模倣も苦手で、なにかあるのでは…と感じ始めた時期でした。ある日支援センターへ遊びに行き、そこで朔太郎は大癇癇。後にも先にもないくらい大きな癇癇で、センター中に声が響き渡り、周りもびっくり。その後、朔太郎も落ち着きしばらく経った頃、スタッフの方に声を掛けられました。「おいくつですか?」とニコニコしながら話しかけてくれたその方は相談支援員さんで、わたしは思わず悩みを話してしまいました。うんうん、と顔きながら話を聞いてくれ、どこにも吐き出せなかった気持ちを外に出てホッとしたのを覚えています。

そこで紹介されたのが児童発達支援でした。最初は「へえ…」くらいでピンときませんでした。何回か支援センターに通ってその支援員さんと話すうちに幼稚園の話になった時のことです。急に暗い表情になり、「この市はね、公立幼稚園がなく全部私立幼稚園なのよ。しかもoggyさんのお住まいの区は厳しい園しかなくて…必要なら区外の園も検討した方が良さそうね…」と言いました。厳しい園とは、障害児の受け入れをしていない、という意味です。この言葉には大変ショックを受けました。

そんなに…?あれ以降癇癇も起こさないし、言葉が少し遅れてる程度なのに…モヤモヤが止まりませんでした。しかし家に帰って、支援員さんはきっと癇癇以外にも朔太郎の言動を見てそう思ったの



## 感動ストーリー

だろうなぁと考え、この言葉通り、重く受け止めることにしました。それから即、児童発達支援に通うことに決めました。それがコペルです。

朔太郎はとても楽しそうに通っています。「今日はコペルに行くよ」と言うと「コペル??やったー!」と喜び、雨の日も頑張って長靴を履いて歩いて行きます。

現在、課題はスムーズにこなす一方で、不安感が強いことがわかり、個室に入る時もわたしが一緒でないと入れません。それでも先生方は朔太郎を楽しませようと色々試行錯誤して下さり、おかげで課題の途中から集中しだし、わたしがいなくなっても先生と楽しそうに過ごしています。最近では課題が始まる前に「バイバイ!」とタッチして個室を出ることができるようになり、成長を実感しています。さて、先日幼稚園の面接がありました。わたしは朔太郎の成長は感じつつ、面接は不安と緊張でいっぱいでした。事前に朔太郎の特性や療育センターの受診歴があることを伝え、当日を迎えました。親子面談で色々聞かれるだろうなぁ…と思い自分の中で想定した質問の答えをいくつか用意して挑みました。子どものみの集団面接を終え、いよいよ親子面接。席に着き、先生が事前に伝えておいた朔太郎の書類を見て、にこやかに「そうなんですね…僕、集団面接で朔太郎くんのこと見ましたけど、なんにも気になることなんてなかったですよ。」と言われました。続けて、「不安感がある…んですね。お母さん、僕は体操を担当しているのですが、参加できなくても全然いいんですよ。無理強いはいしません、見ているだけでいいんですよ。それだけでエライ。見てると、自然と入ってくる時がくる。喜んで待ちます。お母さん、どうか朔太郎くんのこと、そういう目で見ないであげてく

ださい。僕は朔太郎くんの成長が楽しみです。安心して通わせてください」と言われ、涙が出る思いでした。もちろん、15分程度の面接や事前に伝えておいたことで朔太郎の全ては伝わっていないというのは分かっていたのですが、それでも、朔太郎のことをきちんと見てくれた人にそう言ってもらえて、安心して通わせてくださいと言ってもらえた。それは朔太郎の発達を疑ってから約1年、頑張りが報われたような思いでした。

ここまで成長できたのは、コペルに通っていたおかげだと思っています。

朔太郎に合わせた課題や声かけ、不安を感じさせないような接し方をしていただき、とても感謝しています。コペルには成長のきっかけをもらえている、とわたしは感じています。

通ってさえいれば成長するというわけではなく、コペルでやったことが自信になり家や外でもやってみようと思える。そのきっかけはとても大きいものだと感じています。本当にありがとうございます。これからもコペルにきっかけをもらいつつ、朔太郎の成長を見守ってもらえたらな、と思っています。



## 成長発見の場

ペンネーム：セイボヌヌ／川崎教室

「今日出来たことが、明日出来なくなるかもしれません。」  
担当医から告げられた言葉を今でも鮮明に覚えています。  
息子は妊娠40週で産声のない重症新生児仮死で生まれ、NICUで救命処置を受けました。

幸い、これまで息子には身体的な障害はみられませんが、2歳頃から周りの子に比べ言葉の発達の遅れを感じるようになり、療育センターの勧めでコペルプラスに通うことにしました。

コペルプラスではまず先生との面談で達成目標を相談、決定し、発達に合わせたレッスンを行ってくれます。

入所時、私達は息子の発語を増やしたかったため、個別クラスを選択しました。

最初は課題に全くついていけませんでした。子供にとっては長いであろう1時間弱のレッスンの間じっと座って集中してる息子の姿に、「何か変わるかもしれない。」という希望がみえ、続けてみようと思いました。

先生達は息子の得意な事、不得意な事、時にはやる気が見えない事も、温かく見守り指導してくれます。

そんな取り組みが合っているのか、息子は楽しくコペルプラスに通い、そこで私達が発見できる成長も多々あります。

未だ言葉の発達に遅れがある息子ですが、先日教室の掲示版を見

つめ「せ・ん・せ・い・し・よ・う・か・い」と1文字ずつ丁寧に読み上げたときはとても驚き、夫婦で感動を分かち合いました。

その他あいさつや生活面の指導も行って、「気をつけピッ! さようなら!」や、靴を揃えて脱ぎ「お靴ピタリ!」なども、家や保育園で自然と出来るようになりました。

息子は挨拶がとても元気なので、保育園からも「毎朝元気をもらっちゃう。」と褒められるようになりました。

親からの相談もコペルプラスは親身になって答えてくれ、安心して通わせることができています。

個別クラスも慣れた頃、保育園から息子が場面の切り替えが出来なく困っている、と相談を受けました。

私達だけでは解決法が見つからず、コペルプラスへ相談し集団クラスを受ける事を提案されました。

何度か集団クラスに参加するうちに、周りの状況を観察する様子やお友達のマネが増えてきて、おかげで少しずつ切り替えが出来るようになったと感じます。

卒生の時期が近づいており、成長発見の機会が減ってしまう寂しさを感じていますが、コペルプラスで私達が学んだ「子供の個性を見つめ、尊重する。」という事を継続し、今後も息子の「出来た!」を発見し伸ばしていきたいです。



## コペルと明日(あした)

ペンネーム: りーゆ/ジュニア北広島教室

僕は小学生3年生  
僕は人と話すのが苦手  
でも、話したい。でも、話せない。  
だけど、話したい。  
そんなある日、おかあさんがコペルに連れていってくれました。  
体験入学にいきました。  
すると、初めて会った先生が  
「はじめまして」  
と、やさしく挨拶してくれました。  
なんだか、今までドキドキしていた緊張が一気に吹き飛んで、いっばいコペルの先生と話したいと言う気持ちになりました。  
そして、おかあさんがコペルに入会してくれました。  
行く前は最初、ワクワクしていました。  
行った時も  
「こんにちは」  
といつも優しくあいさつしてくれます。  
なんだか、心からいやされますし、会話って素敵だなあと思いました。  
たくさん話せるようになりたいとも思えるようになってきました。  
レッスン中も一緒に笑ってくれます。  
なんだか、1人じゃないと思えます。  
なんだか、話すことが楽しいと思えます。  
こんな時間があってもいいよね？

こんな優しい先生がいてもいいよね  
こんなに笑いあえる時間があってもいいよね  
出会いってすてき  
つながりってすてき  
えがおってすてき  
人とペラペラ話せないけど  
今日よりも明日、明日よりもあさっての自分がもっと好きになれるといいよね  
自分がここにいる  
そう思える自分に気づけるっていいよね  
「先生」  
まだまだ出来ないことたくさんあるかもしれないけど、1つ、できることがふえるだけでもいいよね  
1つ、えがおになれる自分がいるだけでもいいよね  
「支えてくれる先生」  
これからも、一緒にたくさん新しい自分の発見に力をかけてください。  
まだまだ、気づいていないあしたの自分をさがしに行きます。



12

## 歌ってすごい

ペンネーム：森のくまさん／明石教室

コペルプラスに通う前は何事にも興味の薄かったことも。動物、乗り物、ゲーム、色々試したが手応えなし。

ある日、コペルプラスにて「46億年前に～」から始まる歌が出てきた。地球が生まれ、恐竜など様々な生物が進化を続けたよ、という内容だ。帰宅後はずっとその歌を繰り返していた。次回の授業でもこの歌が始まると背すじがシャキッと伸び、やる気が見えた。

嬉しくなって古代生物の本を購入して帰った。本を読み、特にシーラカンスに興味を持ったようだ。

シーラカンスのおかげで会話が増えた。生きた化石と呼ばれること、深海で暮らすこと、2種類発見されていること。口下手なこどもが楽しそうに教えてくれる。将来はシーラカンスや深海生物の研究者になる夢ができた。

13

## コペルを通して成長する息子の姿

ペンネーム：はるママ／港南台教室

コペルプラスを知ったのは、ふと窓越しから見えた教室の名前からでした。すぐに調べると息子のような発達障害をもつお子さんが通える教室と知り、私はすぐに体験をお願いしました。何故なら、幼い頃から通っていた習い事も母子分離できずに辞めてしまったからです。

何かこの子に習い事を、最初はそのような感覚でした。どうか楽しく続けられますようにという願いを込めて見守りました。体験では息子の好きなパズルや歌、そしてフラッシュカード。息子の横顔は恥ずかしさと不安を感じながらも次から次へと教材が変わることに楽しさを感じていました。泣くこともなく過ごすことが出来たことに私もホッと感じるものがありました。それも今では習い事という感覚はなくなり、息子にとって必要なものとなりました。ちょっと前置きがながくなってしまいましたが、息子の面白いエピソードが2つあります。

ひとつ目はコペルを通じて仲良くなったお友達存在です。息子は保育園以外でお友達と遊ぶことがなかなかできません。お友達との距離感がわかりにくいと言われていました。コペルでも、お友達がいると知ると、不安で部屋に入りたくないと、泣くこともしばしばありました。そんな息子が何度か時間帯が同じになるお友達存在に気づいて「名前は？だーれ？」と私に聞くようになりました。興味があるのかな？と思ったので、お友達と私がまずタッチをしている様子を



## 感動ストーリー

見ていました。すると次は教室が開始する前まで、部屋の前で2人で交互にタッチして走るようになりました。次第に2人の距離が縮まってきて、息子は楽しくて帰りたくないと大泣きするようになりました。あゝ成長したんだね。会話することもなく、お友達の後ろを追いかけて走っている様にはしか見えなかった息子が楽しくて泣いている姿に成長を感じました。また「はじまるよ」という先生の声かけで自分の部屋に入る息子が本当に遅く見えました！

もう一つのエピソードは、下の子、妹の存在です。コペルに通いはじめて数ヶ月後に私が妊娠をし、兄になった息子。自分のことを「にーに」と呼んで欲しいくらい大好きな妹です。その妹が3ヶ月くらいになると、「あおいそら」の歌で笑うようになりました。何度も笑うのを見て、「待っててね、今持ってくるから」と家にあるカードを出してきて、娘を座らせてほしいとお願いされました。向かい合わせに座ると、はじめの歌を歌い、あおいそらを歌い、名前を呼びすっかりコペルプラスの先生になっていました。

妹に教えるようになってから、フラッシュカードの時の目がより一層真剣な眼差しで聞き、繰り返し妹に教えています。お気に入りには、英語とペルちゃんが整列します。そして、俳句です。全てオリジナルで教えてくれるので、娘も笑顔で聞いています。早く2人で「あおいそら」を歌う日が待ち遠しいです。

息子との生活は、いつも他の子と違うという子育ての難しさを感じていました。そんな子育てや息子の様子を窓越しから階段のように少しずつ成長とともに、その良さを感じとることが出来ました。椅子

に座って、終わるとおしまいと先生に言ったり、こうしたらどうか？と先生とやりとりしたり、通えば通うほど息子がどんどん成長しているように感じてなりません。本当に先生方との出逢いに、コペルプラスとのご縁に感謝しています。



14

## 対話の花が咲く春へ

ペンネーム：あんず／小山喜沢教室

「療育」という言葉を初めて耳にしたのは、去年秋のことでした。年少から入園した幼稚園の担任の先生から言われた面談でのひとこま。

「翔太君には補助の先生を付けて下さいと、園長に頼みました。言葉も遅いし、集団行動が出来ません。」「療育に通って翔太君への接し方を、保護者でも担任でもない、第三者の意見助言を聞いた方が良いでしょう。のちに早くいけば良かったと思ってても手遅れです。」「病院の診断書があると、補助の専属の先生を付けられます。」

私は正直「は？療育？病院？うちの息子が障害児だと？」と気分を害しました。

確かに言葉は単語で一語や二語話すレベル。3才のわりに遅いかなあとは思っていたものの、男の子だし個人差だと思って特に心配はしていませんでした。

集団行動が出来ないのは、自分は今これがしたい！という自己主張が強いだけで、今まで保育園やサークルなど集団生活、集団行動の経験がないからって言うだけでしょ！と思っていました。

その翌月、主人の仕事の都合で他県へ引っ越しました。翔太は3才8か月。

転園する幼稚園を探すと同時に、市役所で発達検査を受け、療育に通う手続きを進めました。息子のために出来る事、してあげられることは全部しよう！と思ったからです。検査の結果は1才のIQ・・・。

「市内の療育施設は多数あります。何か所か見学して、翔太君が楽しく通える所を選んで下さい。」と市役所の担当の方から言われ、4か所の施設を見学した中で、息子が1番楽しそうにしていたコペルに決めました。当初、「集団療育」の教室が良いかな・・・と思って探していましたが、コペルは個別で50分のレッスンだけど、内容がとても充実していて、息子が飽きずに楽しく取り組める課題の数々。子供の良いところを見つけて伸ばしていってくれるという方針。「瞳孔が開いて、お子さんの瞳が輝くんです！」と、体験レッスンを窓越しに見ながら丸山先生がおっしゃった言葉がとても印象的でした。

今年1月から週2回のレッスンが始まりました。机に上ってしまったり、床に寝転んで泣きわめいたり、「あちゃー・・・。」と思いながら見守る日々でしたが、「先生方、慣れてるので大丈夫ですよー。」という言葉に感謝して、信じて、レッスンを重ねていきました。

通うにつれ、がまんや会話ができるようになっていくのが目に見えてわかりました。

去年の12月に転入した幼稚園でも、コペルに通い始めた1月から、急に集団行動が出来るようになっていきました。2月のマラソン大会では、400m集団の中の一人として走っている姿を見て、とても嬉しかったです。

コペルに通って3か月がすぎた4月6日のレッスン。初めての磁石を使った直観像の課題で、先生の質問の意味を理解して、マグネットを置いたんです！！その背中を見て、涙がでそうになりました！感動しました！

それまでは何か私が質問しても、オウム返しになるか、無反応で「質





## 感動ストーリー

問の意味を理解して答える」ことができていないなあ・・・と心配していたからです。コペルに決めて良かった!と強く実感した日でした。

通っていくうちに自己紹介の名前を言えるようになったり、単語で一語二語ではなく、「こお?これあってる?」「翔太、そろばんやる!」「先生、順番ね!」と色々な会話ができるようになったり、気持ちの切り替えが早くなったり、成長を感じる事が沢山あります。

10月7日 幼稚園の運動会。個人競技を走っている姿、列に並んでいる姿、集団の一人として行動できている姿を見て、涙があふれてきました!コペルに通い始めた頃には全く想像がつかなかった姿です。

私は翔太の瞳をじっと見て、翔太の気持ちをくみ取って、コミュニケーションをとろうしてくれる笠原先生をはじめ、コペルの先生たちが大好きです。引き続き教室に通って成長を手助け、また見守りたいと思っています。今後とも宜しくお願いいたします!



## 息子が気づかせてくれた1つずつの大切さ

ペンネーム:みー/新川崎教室

最初は、運悪く、色んな事に絶望していた時からコペルプラスは始まりました。

子供が発達障害と検診で言われ、どうしていいか解らないで調べている最中に、私は血液のガンにかかり何もできなくなってしまいました。

手術を受け、長期入院生活を送る事がわかった時にコロナ禍が襲いかかり、子供の為に会うことさえできない日々が続きました。その中で子供のトラブルを家族から聞かされる度に、この子は上手に生きて行くことができるのだろうかと心配になりました。

運良く命は無事に子供の元に戻れたときに、コロナ禍で中々外に出れない中、怯えながら足を運び、子供も診断を受け、療育を探し始めました。

いくつか探したり見学している中で、子供は他の子供を恐れたり、先生が怖いと言ってなかなか決まりませんでした。

私は子供が大人になるまで居てもあげられない可能性も高いし、子供の為に、教室さえ探してあげられない、何もしてあげられないんだと悲しんでいました。

そんな中、コペルプラスに出会いました。

最初はコミュニケーションが苦手と言われていた子供なので、診断をしてくれた医師等からは他の人と触れ合ってくださいと指導され



ているのに先生と一対一は意味があるんだろうか?と訝しがっていた私の考えを変えてくれました。

子供は行くのが楽しみで、先生が怖いなんて一言も言わず、こんなことしたんだよ、またあれやりたいなぁと笑顔で話してくれました。そうか、人が苦手ならまずは、1対1で信頼をかさね、人とのふれあいは楽しいのだと感じてもらう必要があるんだと納得しました。家だとドリル1つやるのが難しい子供が、コベルで笑顔でプリントに向き合う姿は、慌てないで、少しずつでも今やれる事をやっていけばいいんだなぁと希望を抱かせてくれました。

気づかせてくれて本当にありがとう。私も子供と一緒に行くのが楽しみです。

今日は何ができるかな?

# 小学生対象調査 分析結果報告書

(2020年10月6日 瀧靖之、松平泉)



瀧靖之教授

## ▶ 共同研究の目的

御社の教育が子どもの非認知能力・認知能力を育み、well-beingの発達に寄与することの心理学的エビデンスを得ること。

2020年7月～8月は小学校低学年児を対象として、生徒様(コベル群)と対照群の認知能力や非認知能力を比較し、御社の教育の効果検証を行った。



## ▶ 研究方法

参加者	コベル群(N=41)	対照群(N=27)
平均年齢	7.34歳	7.51歳
性別	男子27名、女子14名	男子10名、女子17名
居住地	仙台14名、福岡27名	仙台19名、福岡8名

### 認知能力検査 / ウェクスラー知能検査(WISC-IV)

全体的な認知能力と言語理解、知覚推理、作業記憶、処理速度の能力を数値化する検査。年齢による差が無いように作成されている。

### 非認知能力検査 / 小学生版QOL尺度(親用)

保護者の視点から子どものWell-beingを評価する尺度。身体的健康、精神的健康、自尊感情、家族、友だち、学校生活の6下位領域がある。

### 分析方法 / 独立した2群のt検定

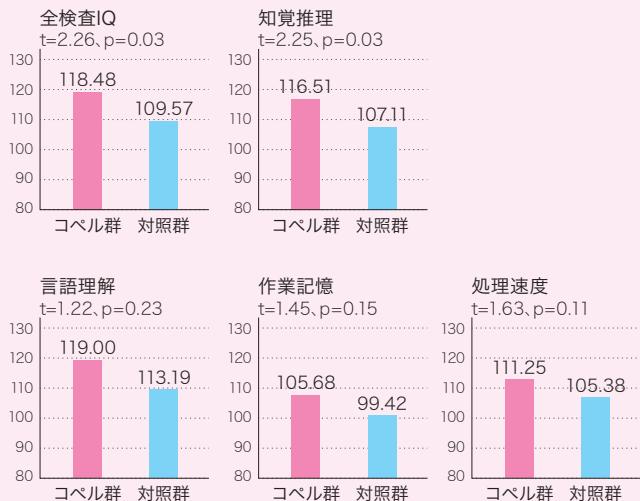
(コベル群、対照群の平均値を比較)

記入漏れサンプル等を除外して、最終的な分析対象はコベル群35名(男子22名、女子13名)対照群26名(男子10名、女子16名)

## ▶ 分析結果

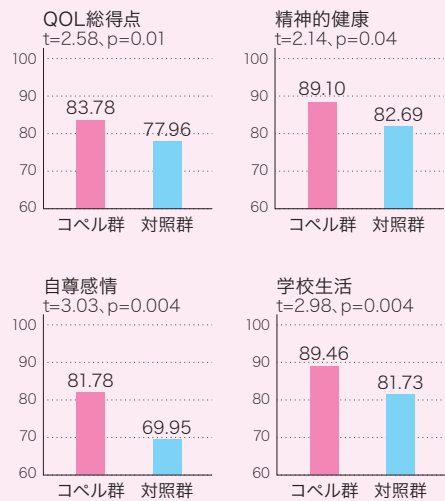
### ① 認知能力検査の得点の群間比較

コベル群は対照群よりも全検査IQと知覚推理指標(視覚情報の処理抽象的な概念の理解)の得点が有意に高いことが確認された。



### ② 非認知能力検査(QOL)の得点の群間比較

コベル群は対照群よりもQOL総合、精神的健康、自尊感情、学校生活の得点が有意に高いことが確認された。





---

## 会社概要

---

社 名 : 株式会社 コベル

所 在 地 : <本社>

〒160-0022 東京都新宿区新宿4-1-6 JR新宿ミライナタワー10F

<福岡本部>

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神3-1-16 橋口ビル 2F

Tel:0800-777-8777

代 表 者 : 代表取締役社長 大坪信之

事 業 内 容 : ・児童発達支援事業

・放課後等デイサービス事業

・幼児教室事業(幼児教室コベル)

・幼児教育教材販売

・保育園事業

